

## 体験版 (Black69cross/Nagisa)

「仮初の淡桜」より

一瞬の出来事だった。

突然蹲った総司、それを気にかけて肩に触れる左之の手。しかし気がつけば布団の上に押し倒されていたのは左之の方だった。

「で？ どうするつもりだ？」

「なんでそう平然としていられるかな。普通、もっと動揺しない？」

「俺がしたって総司にとっては得にもならないだろ。けど、まさか総司に押し倒されるとは思わなかった。どこにそんな力残っていたんだよ」

「力なんて残っちゃいないよ。ろくに立ち上がることもさえ出来ない。けどね、残り少ない力を一点集中させれば出来ないこともないよ、左之さんをこのまま……」

「俺をこのまま、どうするって？」

次の衝撃は冷たい総司の唇が左之の唇を塞いだのだ。つた。

さすがに左之の身体が一瞬だけビクッと反応する。

「心揺れて乱れ桜」より

息もつかせぬくらい喚いていた平助が途端に静かになり、代わりにビクッと身体を強張らせ震えだす。

「ごめん、ごめん、ごめん……新八さん、ごめん。許して……許して……」

新八への謝罪と懇願が繰り返されていく。

左之は信じられないという目で平助を暫く見ていた。確かに平助の一件で荒れてはいた、いたが——人として男として、新八がここまで平助を追い込むとはどうして思えない。

思えないが現実目の前で、明らかに平助は新八に懇願している。

新八が手を下した、直接。

いや、誰かに頼んだのかもしれない。

しかし、新八の性格から考えるとそれは絶対にありえなかった。

続き・他作品は本編にて